

若手研究者コラムリレー

橋詰 賢（はしづめ さとる）



プロフィール

立命館大学スポーツ健康科学部 助教
日本体育学会の専門領域: バイオメカニクス

経歴

2004-2008 早稲田大学 スポーツ科学部スポーツ医科学科
2008-2013 早稲田大学 スポーツ科学研究科
2013-2015 日本学術振興会特別研究員PD (順天堂大学・Georgia Tech)
2015-2019 産業技術総合研究所 人間情報研究部門
人工知能研究センターを経て2019年より現職

E-mail: s-hashish@fc.ritsumeit.ac.jpまたはsatoru.hashizume@gmail.com



バイオメカニクス学会理事の先生方と筆者
(先生方のプライバシーのためぼかしを入れています)

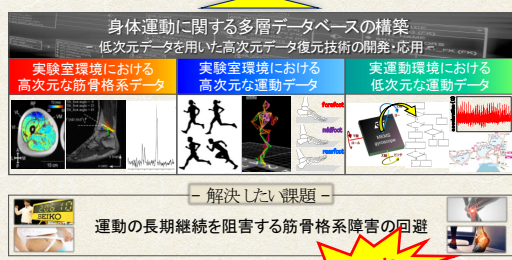
わたしの研究

“力学的なロジック”に基づいた 運動器障害リスクを明らかにする

運動の実施が健康の維持・増進に重要であることは広く認知されている一方、何事も過ぎたるは及ばざるが如し、過度な運動の実施は筋や腱、骨といった運動器の障害を引き起こす原因となります。私の研究テーマは、身体に作用する負荷を評価することで、“力学的なロジック”に基づいた障害リスクを明らかにすることです。

現在は、医用画像や運動解析を用いた実験室環境での詳細かつ非リアルなデータと、センサの信号解析を用いた実運動環境での簡略かつリアルなデータを組み合わせることで、詳細でリアルなデータの復元技術の開発を進めています。また最近では不可逆的な運動器障害を持つ下肢切断者を対象としたデータ収集を行い、障害と運動機能の関連についても研究を広げています(特集記事を執筆しましたので下記に紹介します)。

あらゆる筋骨格系障害から解放された運動継続の達成
実運動環境における“リアル”な筋骨格系障害リスクの解明・評価



わたしの渾身の論文・書籍・記事

Satoru Hashizume & Hiroaki Hobara, Asymmetric lower extremities and sprinting techniques in sprinters with unilateral transfemoral amputations. Journal of Training Science for Exercise and Sport: 129-136, 2018.

必読

(なんでも帳)

縁あって2019年度より、日本バイオメカニクス学会の理事と事務局を担当しております。今まで自分自身にとって、学会とは所属することで、学会大会に参加できる、公募されているGrantに申請できる、出版している雑誌に論文が投稿できる...といったくらいの認識でいたように思います。もちろんこの認識が誤りであるというつもりは全くありませんし、多くの学会員にとっては概ね正しいとも思います。しかしこの1年余り、学会の運営に携わって、学会なるモノはこのように運営されているのかと、上記の認識が大きく変わりました。当たり前と言われればそれまでではありますが、学会運営においても、何かを行うにあたっては、企画から実施に至るまで色々な人のeffortが割かれているということです。日本体育学会ならびにこの若手の会もまた、関係の先生方のご尽力あつてのものと考えますと、今回このような機会をいただいたことにも感謝したいと思います。

ちなみに私は企画委員会の委員も担当しています。バイオメカニクス専門領域の方々はもちろんのこと、体育学会の他専門領域の方々におかれましても、バイオメカニクス学会へのご意見・ご要望・ご質問等ございましたら、私までご連絡ください！こんなことが出来ないか？こんなことしてみませんか？など気軽にコンタクトいただければ幸いです。

○次回のコラムリレーは大阪国際大学の「望月拓実」さんを予定しています。

日本体育学会若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育学会若手の会が発足しました！

→メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPa5fY3kcB5q2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taiikugakkaiwakate@gmail.com (担当: 木村)

